

TICKET
チケット

1日通し券 一般:2,500円／学生:1,500円



3月19日(土)朝10時より、チケットぴあにて発売!

- チケット販売期間:4月3日(土)13時まで。会場での当日券の販売はありません。

購入方法



① インターネット購入

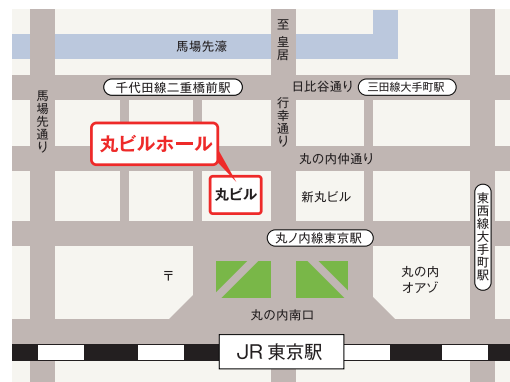


※チケットは会場では発券できません。必ず、セブン-イレブンかファミリーマートで発券の上、ご来場ください。

② セブン-イレブンで直接購入

【Pコード: 552-037】

- 全席指定席です。(チケット購入時、自動的に座席が決定します。ご了承ください)
- チケットの払い戻し、交換、再発行はいたしません。



丸ビルホール

東京都千代田区丸の内2-4-1 丸ビル7F
(JR東京駅丸の内南口より徒歩1分／丸ノ内線東京駅および千代田線二重橋駅より直結)

【新型コロナウイルス感染拡大防止のためのお願い】

- ※ 会場内では、必ずマスクをご着用ください。
- ※ 検温、消毒へのご協力をお願い致します。37.5度以上の発熱がある方はご入場をお断りさせていただきます。
- ※ 37.5度以上の発熱がある方、咳や咽頭痛など体調の優れない方、14日以内に感染者との濃厚接触が疑われる方は、ご来場をお控えくださいますようお願い致します。

VENUE
会場

主催



一般社団法人PFF

オフィシャルパートナー



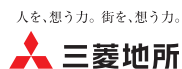
特別協力



オフィシャルTOPサポーター



オフィシャルサポーター



特別協賛



協賛



賛助

アテナ・フランセ文化事業(株)／(株)伊藤園／エイベックス・ビクチャーズ(株)／KANDO(株)／ギャガ(株)／キングレコード(株)／クエストルーム(株)／(有)スタンス・カンパニー／チケットぴあ九州(株)／チケットぴあ名古屋(株)／(株)夏への扉／(株)PIVOT／フィルミネーション(株)／(有)ヴォルテージ／(有)プレス／(株)マジックアワー／(株)みずほ銀行／(株)ロケット



第3回
大島渚賞

4.3(日) 13:00開映 会場:丸ビルホール

上映作品

『海辺の彼女たち』 受賞監督作品

『絞死刑』 大島渚監督作品

トークショー

藤元明緒 × 黒沢清 × 大島新
(第3回受賞者)

※敬称略

Oshima Prize
2022

記念
上映会

写真提供:朝日新聞社

新たな道を切り拓き、世界へと＜飛躍＞する若き才能

2019年、PFFが創設した映画賞「大島渚賞」。

審査員長の坂本龍一氏、審査員の黒沢清監督、荒木啓子PFFディレクターの3名による討議を経て、「第3回大島渚賞」の受賞者は、藤元明緒監督に決定しました。
4月3日(日)には、東京・丸ビルホールで、記念上映会を開催します。藤元監督、そして大島渚監督の魅力が満載の、この日だけの特別なイベントに、ぜひご来場ください。

大島渚賞

検索

第3回
受賞者

藤元明緒 監督

ふじもとあきお



PROFILE

1988年、大阪府生まれ。ビジュアルアーツ専門学校大阪で映画制作を学ぶ。在日ミャンマー人家族を描く初長編『僕の帰る場所』(2018年)が東京国際映画祭をはじめ33の国際映画祭で上映。2021年、ベトナム人技能実習生を描く長編第二作『海辺の彼女たち』を公開。同作品で2021年度「新藤兼人賞」金賞、TAMA映画賞最優秀新進監督賞など多数の映画賞を受賞。新作短編『白骨街道 ACT1』が、4月に特集企画「映画を観て、ミャンマーを知る Vol.2」の上映作品として劇場公開される。

第3回大島渚賞 記念上映会

4月3日(日) 開場 12:30 開演 13:00 終演 17:40予定

第1部
13:00～

受賞監督作品上映

『海辺の彼女たち』

2020年／日本・ベトナム／カラー／88分



寒々しい海辺で懸命に生きるベトナム人の元技能実習生たち。過剰な演出を一切排し、リアリズムに徹した文体ながら、「彼女たち」に対する監督の温かな優しさがあふれる。ゲルデンヌ兄弟の作風を思わせる秀作。

監督・脚本・編集：藤元明緒／プロデューサー：渡邊一孝、ジョシュ・レヴィ、ヌエン・ル・ハン
出演：ホアン・フォン、フィン・トゥエ・アン、クイン・ニュー

©2020 E.x.N.K.K. / ever rolling films

第2部
14:40～

トークショー

藤元明緒×黒沢 清×大島 新

MC:荒木啓子(PFFディレクター)



黒沢 清
(映画監督)



大島 新
(ドキュメンタリー監督)

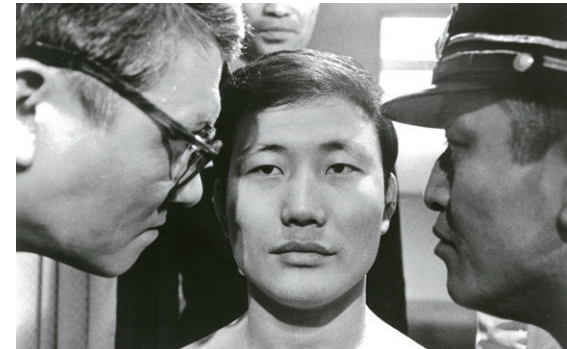
『海辺の彼女たち』上映後、藤元明緒監督と、審査員の黒沢清監督、荒木啓子PFFディレクターによるトークをお届けします。後半は、大島渚監督のご子息で『なぜ君は総理大臣になれないのか』、『香川1区』も話題の大島新監督にも加わっていただき、大島渚監督の唯一無二の魅力を語り尽くします。

第3部
15:40～

大島渚監督作品上映

『絞死刑』

1968年／日本／モノクロ／117分



絞首刑に処されたはずの在日朝鮮人死刑囚R。だが処刑は失敗し、記憶喪失に陥ったRの刑を再執行しようと、死刑執行人たちは躍起になるが…。1969年、カンヌ映画祭の監督週間上映され、大島監督の国際的評価の皮切りとなった作品。

監督・脚本：大島 渚
脚本：田村 孟、佐々木守、深尾道典
出演：尹 隆道、佐藤 慶、渡辺文雄、石堂淑朗、小山明子

「大島渚賞」とは



「大島渚賞」は、映画の未来を拓き、世界へ羽ばたこうとする、若くて新しい才能に対して贈られる賞です。かつて、大島渚監督が高い志を持って世界に挑戦していったように、それに続く次世代の監督を、期待と称賛を込めて顕彰します。受賞者に送られるトロフィーには、大島監督の座右の銘「深海に生きる魚族のように、自らが燃えなければ、何処にも光はない」(歌人・明石海人のことば)が刻まれています。

【審査員長】坂本龍一(音楽家)

【審査員】黒沢 清(映画監督)、荒木啓子(PFFディレクター)

第1回受賞者は小田香監督



2020年、栄えある第1回は、独自の映画言語で強靱な作品を生み出している小田香監督が受賞。受賞対象作品の『セノエ』は全国約30館で公開されて話題を呼び、小田監督は「令和2年度芸術選奨・文部科学大臣新人賞(映画部門)」にも選ばれました。2021年の第2回は、該当者なしでした。



映画監督 大島 渚

1932年、京都府生まれ。54年京都大学法学部を卒業し、松竹に助監督として入社。59年『愛と希望の街』で監督デビュー。『青春残酷物語』『日本の夜と霧』などで新鮮な技法を見せ、一躍脚光を浴びる。61年松竹を退社し、独立プロ「創造社」を設立。以後、『日本春歌考』『絞死刑』『少年』『儀式』などを製作・監督した。75年に「大島渚プロダクション」を設立。76年、日仏合作映画『愛のコリーダ』が海外で高い評価を得て、78年『愛の亡霊』で第31回カンヌ映画祭の最優秀監督賞を受賞。その後『戦場のメリークリスマス』『マックス・モン・アムール』などの海外合作映画を発表し話題を呼ぶ。99年『御法度』を制作。2001年フランス芸術文化勲章授与。13年に80歳で永眠。79年～88年、92年と「びあフィルムフェスティバル」の審査員を務めた。

※文中の敬称は省略させていただきます。